

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

計画体系コード	4-2-1			事業名	北海道の野生動物復元事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
オオワシ、シマフクロウの繁殖数	-	-	-	-	3羽	3羽	
オオワシ、シマフクロウの放鳥数	-	-	-	-	3羽	3羽	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 ビオトープ整備に際しては、市民及び有識者から成るビオトープ協議会を設置し、協働して調査、計画検討を実施した。(会議開催6回、参加者公募による観察会等2回)</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 事業の社会的貢献性の説明などを通し企業の賛同を得て、H20年度建設する繁殖小屋1棟の経費を負担してもらうことで協議中 [人材協力] ビオトープの運営にボランティアの参加を促進する。 [情報協力] 該当なし [その他の協力] 該当なし</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり 該当なし</p>							
評価(成果)			課題				
<p>H19年度 野生動物復元事業に付随する傷病鳥獣などの受入準備のため、猛禽類の保護小屋の設置を行った。これにより、収容場所の拡大によりオオワシ・シマフクロウを始めとする猛禽類の保護が可能となり、オオワシプログラムの一部準備が整った。 また、H20年度からの園内ビオトープ整備にあたり、実態調査を市民参加も含めながら実施した。</p> <p>H20年度 ホッキョクグマ出産のため訓練用・飛行訓練用・繁殖小屋の建設工事を延期したため、平成21年度への事業繰越となったが、実施設計までを終えることができた。 自然体験ゾーンの整備は、3月に完了し、4月からの一般公開(土日祝日のみ)に向けた環境整備を行うことが出来た。また、造成前に観察会を市民参加者を含め開催した。</p> <p>H21年度 4月 自然体験ゾーンにて、「動物園の森観察会」を一般公開開始 5月 動物園の森運営補助業務委託</p>			<p>今後の繁殖・放鳥事業に必要な施設建設等予算の財源として一般財源の確保が困難な場合は、企業等との協働事業として行うなどの予算計画が必要である。</p> <p>オオワシプログラムにおいては、シマフクロウの野生復帰計画の策定・実施が課題である。</p> <p>自然体験ゾーンの運営について、市民による運営を実現するための計画策定が課題である。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>繁殖小屋の増設が予定される。また、園内ビオトープを活用した事業は市民・団体参加を促進し、低廉な事業コストでの運営を進めていく。</p> <p>H21年度は、第2次新まちづくり計画で位置づけられた事業のほか、野生動物復元事業の目的達成のため、以下事業を行う予定。</p> <p>自然体験ゾーン運営(3,000千円) ・動物園の森ガイドツアー(毎週土日、計150回予定) ・協議会開催(3回) ・ボランティア講習会(8回) ・3年間のビオトープ管理計画検討、展示物の検討 ・運営管理計画検討 ・水生生物及び昆虫の調査と記録分析 日オオワシ野生復帰プロジェクト(3,471千円) ・繁殖地かつ放鳥地であるロシアの現地視察 ・上記視察を兼ねたサハリンでの野生復帰会議 ・サハリン州立動物園と円山動物園において、リーフレット配布による啓蒙活動 ・オオワシ野生復帰計画の策定、ロシア語翻訳</p>							

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

計画体系コード		4-2-1		事業名	北海道の野生動物復元事業		
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	40,215	575,465	55,320	0	671,000	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0	0	0	
	市の債	0	378,000	0	0	378,000	
予算	事業費	15,000	297,000	181,691	-	493,691	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0		0	
	市の債	0	207,000	0		207,000	
実績	事業費	6,382	102,064	-	-	108,446	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0			0	
	市の債	0	6,000			6,000	
事業費の進捗率		(H19実績事業費 + H20実績事業費 + H21予算事業費) / (計画事業費)				43.2%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度] ピオトープの整備による自然環境プログラムの調査研究費や野生復元プロジェクトにスポットを当てた夏休み特別展示イベント、またピオトープの造成について予算計上していたが、造成についてはピオトープ協議会や市民参加による観察会を通して寄せられた意見・提案により造成費の見直しが必要となり、平成20年度予算内での執行へと変更し未執行となったため、約8,600千円の不用額が生じた。なお、この不用額は動物園の経常経費における燃料費高騰による支出超過に充てられた。							
[20年度] 本市財政状況を踏まえた事業計画の見直しを行い、当初計画した施設の機能・時期を大きく変更しない範囲での事業予算計上となった。野生復帰ゾーンの整備は、ホッキョクグマの出産準備のためH21年度へ繰り越し、野生動物復元事業は、動物園の経常経費を節約し「オオワシ野生復帰会議」の開催費へ充当し執行した。							
[21年度] 計画との差異は、飛行訓練ケージ等の建設を繰越したためである。							